

独立自尊の社会・世界に 貢献する人財を育成する

5月16日（木）、帝国ホテル東京にて第31回となる東進衛星予備校全国大会が開催され、全国から加盟校の代表が出席した。各賞の表彰、最優秀加盟校挨拶、加盟校実践報告に続き、永瀬昭幸社長が本年度方針を発表した。



永瀬昭幸 社長

加古川中央校が19年連続で運営全国部門第1位を受賞！

永瀬社長の開会挨拶に続き、優秀加盟校の発表が行われ、各部門の受賞校の代表に表彰状ならびに副賞が授与された。運営全国部門第1位に輝いたのは、19年連続となる加古川中央校（兵庫県・加古川市）。2位には仙台駅前校（宮城県・仙台市）、3位には香椎駅前校（福岡県・福岡市）が続いた。また、東大合格実績部門では、大船東校（神奈川県・鎌倉市）が第1位を受賞した。

続いて、最優秀加盟校を代表して、株式会社ティエラコム増澤空代表が挨拶を行った。「19年連続で運営全国部門第1位を受賞させていただ

きました。独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育成するという教育理念の下、長年教育の仕事を行ってきました。わたしたちが行っているのは人財育成です。生徒が受験勉強に励んで第一志望校に合格するだけでなく、受験を通じて人間力を高め、社会に出た時に活躍する人間になっていくことが重要だと考えています。

生徒の人間力を伸ばしていくためには、まず指導する私たちが本気になって生徒と向き合うことです。生徒の心を動かすような熱意があるのか、生徒が実現したいと思う目標に対して本気で『努力しよう』と伝えているか。生徒を人間的に成長させられるかどうかは、私たちの姿勢が試されていると思うのです。

生徒もご父母も「成長させてくれる」塾予備校を求めています。私たちが生徒一人一人の人生と向き合い、成長を促していくことが、生徒・ご父母の期待に応えることに他なりません。校舎に通うことが大きく成長する、そのことを生徒が自然と集まってくる、そんな校舎をつくりあげたいと思っています。みなさん一緒に頑張って生徒が毎日通いたくなる校舎をつくっていきましょう！

鎌取駅南口校と七尾駅前校が校舎での取り組みを報告

続いて、加盟校実践報告が行われ、2校の代表が発表を行った。最初に登壇したのは、鎌取駅南口校（千葉県・千葉市）の清水貫先生・矢部裕二先生。グループ全体で高い継続率を実現した施策について報告した。

「わたしたちは東進衛星予備校加盟17年目を迎えます。ここまで成長してきたのは、皆さまからご教示いただいた指導の本質を理解しようと努め、また真摯に実践してきたからだと考えています。生徒数、合格実績ともに地域ナンバーワンを目指して指導してきましたが、生徒や保護者の信頼を得ることが、高い継続率の実現につながっています。成績の向上なくして生徒の継続的な増加はないと考え、教務指導を充実させ、生徒の成績向上に努めてきました。具体的には、東進のコンテンツを徹底的に活用することです。生徒の学力を最大限伸ばすために、担任・担任助手が東進のコンテンツを研究し、どう活用したら生徒の成績が伸びるのかを検討、実践して



加古川中央校 増澤空 代表



第31回 東進衛星予備校全国大会



七尾駅前校 熊野謙 先生



鎌取駅南口校 矢部裕二 先生



鎌取駅南口校 清水貫 先生

「被災直後は正直なところ生きるのに精一杯という状況でしたが、全国の加盟校の先生方からの温かいご支援のおかげで生徒が学びを止めることなく学習を継続できました。避難先の宿泊費のご支援をいただき、生徒の避難先の近隣校舎の先生方には校舎での学習環境を提供いただきました。永瀬社長からは直接お電話をいただき、生徒や生徒のご家族そして私たち社員をも労う温かな言葉をいただき、大変勇気づけら

きました。そして生徒が東進コンテンツを『100%やりきりたい』と思えるような仕掛けも大切です。毎週ホームルームを行い、モチベーションを高めることにもこだわって取り組んできました。そうやって蓄積してきた指導のノウハウを担任担任助手に浸透させるために、様々な研修を行っています。研修によって切磋琢磨する環境をつくることで、目指す水準が自然と高まり妥協しなくなるという好循環が生まれています。担任・担任助手が学ぶことに前向きな姿勢があればそれは生徒にも伝わります。モチベーションアップ、さらには成績アップにつながっていると考えています。今後、『独立自尊の社会・世界に貢献する人材を育成する』という教育理念を達成するために、加盟校のみならず一緒に、教育を、日本を、そして世界を変えていくことに挑戦してまいります」

「被災直後は正直なところ生きるのに精一杯という状況でしたが、全国の加盟校の先生方からの温かいご支援のおかげで生徒が学びを止めることなく学習を継続できました。避難先の宿泊費のご支援をいただき、生徒の避難先の近隣校舎の先生方には校舎での学習環境を提供いただきました。永瀬社長からは直接お電話をいただき、生徒や生徒のご家族そして私たち社員をも労う温かな言葉をいただき、大変勇気づけら

れました。東進ネットワークの皆様が改めてこの場を借りて御礼申し上げます。私たちは、昨年3月に東進衛星予備校に加盟しました。それは、独立自尊の社会・世界に貢献する人材を育成するという東進の教育理念、そして教育の機会均等という東進ネットワークの思いに共感したからに他なりません。昨年は、まずは目の前の生徒と本気で向き合うことだと考え、AIを活用した個人別定石問題演習で高2生の指導に取り組みました。成績を大きく伸ばし成功体験を得た生徒たちが『努力を積み上げることができて、受験生としてスイッチが入った』と話していました。良い形で受験生指導がスタートできる、そう考えていた矢先に起きたのが元日の能登半島地震でした。しかし東進ネットワークからのご支援があったことで、ここまで頑張ってきた生徒の学びを途切れさせてはいけなく、東進ファミリーの皆様の応援にしっかりと応えたい、そう強く思いました。この思いを生徒たちと共有し、『応援してくれる人たちに被災地でも元気に努力していること示そう』と、校舎の心が一つになったと思います。避難先であっても会議室を借りるなど、極力、内部生が集まって一緒に努力する環境をつくりチーム一丸で努力しました。結果は2月向上得点マラソンで全国2位。この経験を通じて、周囲の応援を自らの推進力に変えるという大切なことを、生徒たちは学んだのではないかと思います。今後、地方だからこそ、被災地だからこそ、猛烈に努力する校舎をつくり、未来のリーダーを育てていきたいと思えます。」